

別紙3 令和7年度 学校関係者評価書 作成日 令和7年9月11日 国分寺市立第八小学校 校長名 矢島 英明

|            |                                                                                                                          |           |         |         |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------|---------|
| 教育目標:      | ○よく考える子                                                                                                                  | ◎思いやりのある子 | ○じょうぶな子 | ○進んでやる子 |
| 目指す学校像:    | 【安心】一人一人の居場所と心身の安全・安心がある学校 【信頼】保護者・地域と協力し、信頼される学校                                                                        |           |         |         |
| 目指す児童・生徒像: | 【成長】互いに高め合い、喜びや達成感を抱ける学校 【元気】エネルギーに満ちた活力ある学校                                                                             |           |         |         |
| 目指す教師像:    | ○正しい行動への判断基準に基づき、人のため、社会のために役立つ行動ができ、困難を乗り越え、粘り強く挑戦することができる子。                                                            |           |         |         |
|            | ○児童、保護者、地域の方から信頼される教職員 ○教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員 ○心身ともに健康に生活することの意義と方策を学び、保護者や地域と共に児童が健やかに育つよう努める教職員 ○組織の一員として学校運営に参画できる教職員 |           |         |         |

| 領域           | 中期目標                                                                      | 短期目標                                                    | 具体的方策                                       | 努力指標<br>(中間) | 努力指標<br>(最終) | 成果指標<br>(中間) | 成果指標<br>(最終) | 今後の課題                                                                                  | 学校関係者評価記入欄                                                                                                    |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 確かな学力の育成     | 実際の社会や生活で役立つ知識や未知の状況でも対応できる判断力等の自立と自己実現を図る資質や能力を育てる。                      | すべての児童にとって、学びやすい環境を整備する。                                | 個に応じた指導の充実やICT機器の積極的な活用など、具体的な手立てを工夫する。     | 3            |              | 4            |              | 毎週金曜日の朝のGIGAタイムを活用し、タブレット端末のスキル向上を図る。サポート教室支援員や学習支援サポーターを活用した個別支援の充実により、基礎基本の確実な定着を図る。 | 児童はタブレット端末を効果的に活用しながら学習している。一方で、指先を使い文字等を書いて考え、覚える学習も大切である。低学年では体験的な学習を十分に行い、学年が上がるに従って、タブレット学習を充実させていくとよい。   |
|              |                                                                           | 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。                                | 校内研究やOJT研修の充実を図り、教師の授業力や指導力の向上を図る。          |              |              |              |              |                                                                                        |                                                                                                               |
| 豊かな心の育成      | 人権と生命を尊重する教育活動を通して、相手を思いやり仲間を大切にし、思いを寄せ合い響き合える心温かい児童を育てる。                 | 基本的生活習慣の徹底を図り、規律と秩序ある学校づくりを推進する。                        | あいさつ運動の取組、「八小生活の約束」をもとに基本的生活習慣を身に付けさせる。     | 4            |              | 3            |              | 規律と秩序ある学校づくりを継続し、生活面で課題のある児童について組織的に支援を行う。保護者・地域の方々等来客へのあいさつの習慣をつける。                   | 安全面重視の傾向もあり、地域でのあいさつが減っている様子が見られる。学校・家庭・地域の大人が手本となって積極的にあいさつを行い、あいさつの良さを児童に実感させていく必要がある。                      |
|              |                                                                           | 自尊感情や自己肯定感を育み、豊かな心を育てる。                                 | いじめの予防や早期発見・早期対応への取組や道徳・特別活動等で思いやりの心を育てる。   |              |              |              |              |                                                                                        |                                                                                                               |
| 健やかな心と体の育成   | 健全な生活習慣を身に付け、生涯を通して運動を楽しむとともに、健全な心を維持できる資質・能力を育む。                         | 地域や保護者と連携して、体力の向上・食育の推進・心身の健康・安全への意識の向上を図る教育活動を実践・継続する。 | 体育の授業改善や一学級一取組等での取組において、多くの児童が楽しめるよう工夫する。   | 4            |              | 3            |              | 体力向上の取組の全体計画に沿って、体育科の授業改善を図る。学級遊び、休み時間の外遊びを活性化させ、体力向上や運動習慣につなげる。                       | 身体を動かす遊びができる場所と時間が減っている。気候に左右されない体育館を有効に活用し、児童が参加したくなる取組を企画し、児童と保護者に周知するとよい。また体育の学習でも、よりめあてを意識させた指導を行っていくとよい。 |
|              |                                                                           |                                                         | 児童が自ら心身の健康を大切にする力や意欲を育てるよう、計画的・継続的に働きかける。   |              |              |              |              |                                                                                        |                                                                                                               |
| 家庭・地域との連携・協働 | コミュニティ・スクール組織を活用し、保護者・地域と連携し、地域人材や知的・文化的・歴史的環境を生かした教育活動を国分寺学として位置付け、推進する。 | 組織を活用して、人材や環境等、地域の教育力を引き出し、連携を強化する。                     | 学校支援ボランティアや地域関係機関と連携した体験的な地域学習(国分寺学)の充実を図る。 | 4            |              | 4            |              | 組織を活用し、八小の地域学習(国分寺学)の充実を図る。地域学習の指導・支援を担う保護者・地域の教育力を引き出し、連携を強化する。                       | コミュニティ・スクールという概念が教員や保護者に浸透してきた。また児童の育成には、CSの協力が不可欠であるという教員の意識が向上してきた。今後もCSの取組や広報を地道に継続していくことが大切である。           |
|              |                                                                           |                                                         | 各種お便り、CS実行委員会、学校公開、学校説明会、ブログ等を活用して情報を発信する。  |              |              |              |              |                                                                                        |                                                                                                               |